

学校教育目標		「社会を生き抜く自立した児童・生徒」の育成					総合評価	
運 営 方 針		「やりぬく姿はカッコいい！-GRIT-」を大切にする教育の実践 GRIT…Gutsやる気、Resilienceあきらめない心、Initiative自分から、Tenacity最後まで						
令和4年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標				
【成果】 ・あいさつ運動はセンター委員や6年生の児童により目標を上回る週4回実施、また、生活アンケートでは80％以上の児童があいさつをしていると答えている。 ・外遊びをする児童が目標の60％以上おり、また、シャトルランの記録は県の平均を上回った。 ・教職員全員で、気になる児童の情報共有を会議やQ-Uの研修等で行い、指導に活かすことができた。 【課題】 ・宿題をきちんと提出するなど、学びに向かう力が弱い。 ・子どもの就寝時刻が遅かったり、ゲームやインターネットの利用時間が長かったり生活習慣に課題がある。 ・小中一貫教育では、現状の部会の回数・方法では、人と人との交流をより深めるまでに至らなかった。		◎確かな学力【基盤的学力の習得】 ・読解力の育成		○読解力Stageの実践				
				○1人1台端末の更なる活用				
				○学びに向かう力の育成				
		◎豊かな心【人間関係形成・社会形成能力の育成】 ・安心して教育活動に取り組めるなかまづくり		○安心できる集団づくりの実施				
				○障がいや特性に対する適切な支援の計画・実行・引継ぎ				
				○『あいさつの励行・ルールの遵守』の徹底				
		◎健やかな体・安全【体力の向上と健康意識の醸成】 ・体力の向上 ・基本的生活習慣の定着		○外遊びの推奨				
				○早寝、早起き、朝ご飯等の定着				
				○ネットとゲームのルールづくりと実践				
		◎家庭・地域との連携 ・家庭、地域と連携した教育力の向上		○学校運営協議会との連携				
○9年間の共通のきまりづくり								
○五條西部学園SCHOOL GUIDEの改訂								
◎小中一貫教育の推進 ・小中10年間を見通した教育の推進		○人と人とのつながりを深める						
		○業務の充実						
		○業務時間の減少						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価 結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
確かな 学力	○読解力Stageの実 践	・読解力Stageを指標とする児童評価を1学期と3学期に行い、80％以上の児童が深化することを目指す。 ・読解力Stageに基づく児童の自己評価指標を作成し、全ての児童が自分の力を意識できるようにする。						
	○1人1台端末の更 なる活用	・セレクトタイムでのAIドリルの週2回以上の使用率を100％にする。また、教員の課題配信やテストの指定などを月2～3回以上行う。 ・3年生以上の児童で、読書活動や調べ学習において、e-Libraryや五條市電子図書館を利用した並行読書などでの活用を60％以上にする。						
	○学びに向かう力 の育成	・宿題をしている児童が90％いる。 ・マキスタ(自主学習)をしている児童が70％いる。 ・各学年の家庭学習時間のめやすをこなせている児童が60％いる。						
豊かな心	○安心できる集団 づくりの実施	・年2回Q-Uの分析結果等を用いて実態を把握する。 ・全職員による児童理解、情報共有の時間を会議等で月 2回以上実施する。 ・「集団づくりエクササイズ」を毎月行い、よりよい集団づくりに繋げる。						
	○障がいや特性に 対する適切な支援 の計画・実行・引継 ぎ	・「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基に引き継ぎ、職員間で共有する。 ・通常学級在籍の気になる児童にも「個別の指導計画」を作成し、指導内容を明確化する。						
	○『あいさつの励行・ ルール遵守』の徹底	・あいさつ運動を週2回以上実施。 ・自分から挨拶をしている児童が80％いる。 ・自分の持ち物に記名をし、持ち物管理(忘れ物をしない・落とし物をしない)ができる児童が70％いる。						
健やかな 体・安全	○外遊びの推奨	・外遊びチャレンジを行い、学級の70％以上の参加率を目指す。 ・シャトルランの記録更新を図る。						
	○早寝、早起き、朝 ご飯等の定着	・学期に1度生活チェックを行い、それをもとに保健だよりや保健指導で生活習慣の改善を促す。 ・朝ご飯の摂取率90％以上を目指す。						
家庭・地 域との連 携	○ネットとゲームの ルールづくりと実践	・ネットやゲームの使い方の話を聴く機会を通して、ネットの危険性や身体への影響などを知り、家でのルールや使用時間を守る。 ・家でのルールや使用時間などを守っている児童が70％いる。						
	○学校運営協議会 との連携	・教育活動に地域の関連団体・人材を活かす。 ・年に1回各学年で地域の関連団体・人材を活かす活動を取り入れる。 ・五條西部学園として学校運営協議会を開催する。 ・運営協議会の方針を受けて地域ボランティアにつないだ教育を行う。						
小中一貫 教育の 推進	○9年間の共通の きまりづくり	・小学校、中学校での学習規律(話の聴き方・座り方・持ち物など)を統一する。 ・地域の公共機関の使い方やゴミの処理などの徹底を図る。						
	○五條西部学園 SCHOOL GUIDEの 改訂	・「確かな学力」「豊かな心」「健やかなからだ・安全」の3本柱について、これまでの取組を検証し、継続する取組と変えていく取組を整理する。 ・新しいリーフレットを作成する。						
	○人と人とのつな がりを深める	・小中一貫教育推進組織の部会を充実させる。 ・年に1回小中合同のレクリエーション会を開催する。						
働き方改 革	○業務の充実	・行事の精選や業務の工夫について職員間で話し合う機会を学期に1回もち、業務の改善につなげる。						
	○業務時間の減少	・月45時間以上の時間外労働をしている教職員の数を30％以下にする。金曜日をノー残業デーとし、6時退勤90％を達成率とする。						
今年度の成果と 次年度への課題		[成果]				[課題]		